

第25回秀麗富嶽十二景写真コンテスト

総 評

撮影の際、好条件に遭遇しても、そのチャンスを捉えるのはなかなか難しい。そこが、プロとアマチュアの境となる。

だが、応募者のみなさん、徐々に、物怖じせずにシャッターを押すことができるようになって来ていると思う。

つい、物怖じして、シャッターを押すときに逡巡すると、ぶれる。

「ぶれ」がなくなってきたということは、応募者のみなさん、場数を踏んできていることだと思う。

これからは、条件をどのように捉えて、その条件をどのように表現するかを念頭に撮影に臨んでいくこと。私も、そのお手伝いをする所存である。

どうしても、アマチュアの写真家は、物怖じしてうまく表現できないが、凶々しいくらいの気概を以て撮影に臨んでほしい。

とはいえ、回数を重ね、応募者のみなさん、上達していると思う。

平成30年2月 審査員長 白 簾 史 朗